TEX の使い方 (P4 Rule)

2003 年 2 月 10 日

1　ブリアンプルについて

レポートを書くときに最終的にはまとめてフォーマットを決めますが、ある程度は全員で決めておいたほうが後で編集がしやすいので、そのための決まりを作っておきます。とりあえず、ブリアンプルの部分 (ソースの一番はじめ) に以下の文章を書いてください。

```
\documentclass[oneside]{jsbook}
\usepackage[dvips]{graphicx}
\usepackage{cite}
\usepackage{amsmath}
\usepackage{makeidx}

\setlength{\textwidth}{\fullwidth}
```

一応それぞれのコマンドを説明しておきます。多分実際にはフォントが気に入らないとかほかにも使いたい環境があるとかで最終的にはもっと追加されると思います。

使用するドキュメントクラスは松坂大学の奥村先生の作った jsbook を使います。kiwi と emu には多分入っていると思います。自分のパソコンなどで入っていない場合は奥村先生のページ[*1] からダウンロードできます。

その後にあるパッケージはそれぞれ図や写真を取り込むためのパッケージ、文献引用のパッケージ、数式用のフォント、目次を作るパッケージです。

2　図について

図はいろいろと書式を変えていくときに位置がずれたり全体のバランスが悪くなったりする可能性があるので、後でまとめて編集します。必要な図はとりあえず適当な大きさにして単純に貼り付けてください。特に minipage 環境は文章がつながらなくなったりして困るので注意してください。

図にを参照するときは\ref ですることを忘れないでください。label はなるべく重複しないよう、なるべくほかの人が使いそうにないものにしてください。raiden や detector、pola などはいろいろなところで使

[*1] URL:http://www.matsusaka-u.ac.jp/ okumura/jsclasses/

いそうな気がするのでやめましょう。

3　文献引用について

bibtex を使って参照した文献のデータベースをみんなに作ってもらうことも考えたのですが、データベースのフォーマットの統一とかが非常に面倒な気がしたのでやめます。参照した文献は個人で書くときは別のファイルに参考文献用のデータファイルを作っておいてください。書式は前野先生の物理の英語のプリントに書いてあるものに従います。参照文献の書式は大体こんな感じです。

```
\begin{thebibliography}{99}
\bibitem{leo}
W.R.Leo:
\textit{Techniques foe Nuclear and Particle Physics},
2nd ed.(Springer-Verlag,Berlin Heidelberg,1994)
\bibitem{okumura}
奥村晴彦 :
\LaTeX2e 美文書作成入門，第二版，(技術評論社，2000)
\end{thebibliography}
```

これを印刷すると以下のようになります。

参考文献

[1] W.R.Leo: *Techniques foe Nuclear and Particle Physics*, 2nd ed.(Springer-Verlag,Berlin Heidelberg,1994)

[2] 奥村晴彦：LaTeX2e 美文書作成入門, 第二版, (技術評論社, 2000)

4　その他

目次は\subsection までのせるつもりでする。セクションはそれよりも細かく\subsubsection まで使ってもいいですが、目次には載せないつもりです。それ以上細かく分けたいときは箇条書きとかで対応してください。

反応は $^{116}\mathrm{Sn}(d,p)$ みたいに元素記号は Roman で、proton、deuteron、triton は p, d, t と Italic で書くようにしましょう。

まだ、いろいろ決めなきゃなんないこともありそうですが、とりあえずこんな感じでお願いします。